

### ⑦ インバウンド観光の再開に備えた取り組みについて

**渡辺** これまで県内の観光関連産業は、未曾有の災害とも言えるコロナ禍をなんとか乗り越えるため、国や県の支援策も活用しながら、県内や近隣県からの観光客取り込みに力を注いできたが、国内観光需要に回復の兆しが見え始める中、私はそう遠くない将来、再開が見込まれるインバウンド観光について、今こそ反転攻勢を見据えた取り組みを進めるべきだと考える。

海外との往来が再開した際、日本のどの地域よりも先に本県へと外国人観光客に来てもらえるよう、今から本県の魅力を情報発信するとともに、来県時には快適に観光を満喫できる環境を整えておくことが必要だ。

そこで、県では来たるインバウンド観光の再開に備え、どのような取り組みをしているのか伺う。

**知事** 県では、まず、受入環境の質を高めることとし、自然や歴史などの観光資源を活用した滞在コンテンツの充実や、宿泊施設の高付加価値化への支援に取り組んでいる。

更に、切れ目のない周遊観光の実現を目指す観光MaaSの導入や、70以上の言語に対応するグーグルマップへの観光施設等の情報掲載を促進し、本県を訪れる外国人観光客の利便性向上を図っている。

その他、外国人目線で県内観光地を紹介する旅行記を作成し、ホームページに掲載したところであり、現在構築を進めている全庁的なデジタルプロモーション手法とも連携しながら、外国人観光客にとって必要な情報を適確に伝え、来県につなげることとしている。

### ⑧ 県道富士吉田西桂線の整備について

**渡辺** 富士吉田西桂スマートインターチェンジのアクセス道路となる県道富士吉田西桂線の整備が進められ、完成した箇所から順次供用されたことから、国道139号の通称「暮地の坂」付近の渋滞が緩和された。一方で、通行ルートの変更もあり国道139号のスマートインター入口交差点を中心に渋滞が著しい。この道路の利用者や地域住民から、県道の日も早い完成が待たれている。県道富士吉田西桂線の整備状況について伺う。

また、スマートインターチェンジから富士吉田市側の市道大明見下の水線交差点付近までは、道幅が広く安全な道路になったが、その先の小見見地区から富士見バイパスに至る区間は道幅が狭く、住宅が密集する地域を通過している。地元では新たな渋滞や交通事故の発生などが心配され、この県道の整備をさらに富士見バイパスまで延伸する必要性がより一層高まっている。県道富

士吉田西桂線の延伸について、県の所見を伺う。

**県土整備部長** 県道富士吉田西桂線は、現在事業中の3.6キロメートルのうち、2.5キロメートルが供用済みで、残る1.1キロメートルで整備を進めている。この区間においては、インターチェンジ周辺の300メートルで工事を進めており、未着工であった800メートルについても、本年10月より工事に着手したところだ。

一方、富士吉田市側への延伸は、ルートの検討に当たり、周辺道路の交通量や走行経路などを把握する必要がある。このため本年度は、まずはスマートインターチェンジ周辺の交差点で調査に着手し、今後は新倉河口湖トンネルなどを含め、広範囲での調査を行い、ルートの検討を進めていく。



### ⑨ 小水力発電所の整備と活用について

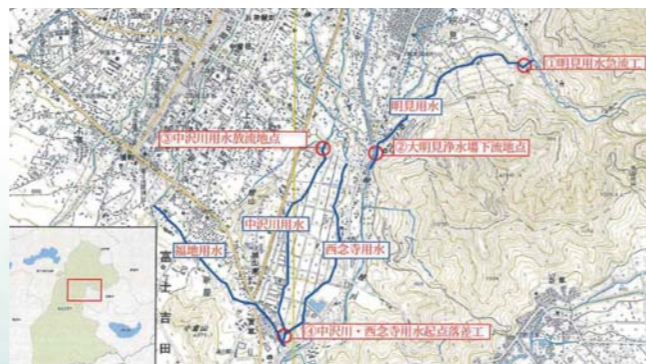
**渡辺** 水力発電については、地球温暖化対策だけでなく、自立分散型電源として災害時における地域への電力供給体制の強化にも繋がるものと期待が高まっている。

昨年10月に知事は、災害時の電力確保に関して、小水力発電所を増やし、停電時においても地域に電力を供給できる仕組みとして、富士吉田市内で実証実験を検討すると表明した。富士吉田市内で計画している小水力発電所の概要と今後のスケジュールについて伺う。

また、本年2月13日の夜中に発生した地震の影響により、富士・東部地域で長時間の停電が発生した。今後、同様の停電が発生した際、小水力発電のみで地域全体の電力を賄う事は困難だと思うが、水力発電全般をどのように地域貢献に繋げていくのか伺う。

**公営企業管理者** 富士吉田市内で計画している小水力発電所の概要とスケジュールだが、現在設計中の2箇所の発電所は、市内の用水路を活用し、それぞれ最大出力13キロワットと40キロワットの発電を計画している。総発電量は約30万キロワットアワーであり、約210トンのCO2削減効果を見込んでおり、来年度早期に工事着手し、令和5年6月頃までの運用開始を目指す。

次に、水力発電全般を活用してどのように地域貢献につなげていくのかだが、通常時は地球温暖化対策に貢献するグリーン電力として全量を売電するが、停電等の非常時は、地域要件に応じ、携帯電話や電気自動車の充電に活用できるよう、非常用コンセントの整備等を検討する。



■総務委員会県内調査(令和3年11月8日)  
消防防災航空隊



■山梨県地震防災訓練  
富士吉田警察署



■山梨県地震防災訓練  
(令和3年11月14日)



■元且マラソン  
(令和4年1月1日)



■山梨県警察年頭祝賀式  
(令和4年1月13日)

# Dreams

Yamanashi Prefectural Assembly deputies  
富士吉田市と山梨県の夢を実現するために



### Profile Junya Watanabe

- 1978年7月5日…富士吉田市生まれ
- 2015年 4月…山梨県議会議員 初当選
- 2015年10月…自由民主党山梨県支部連合会 青年部長
- 2019年 4月…山梨県議会議員 2期目当選
- 2019年 5月…山梨県議会 教育厚生委員長
- 2019年10月…自由民主党山梨県支部連合会 青年局長
- 2020年 3月…山梨県議会 農政産業観光委員長
- 2021年 3月…山梨県議会 総務委員長

昨年9月に行われました自民党総裁選挙において、宏池会の岸田文雄会長が勝利し、その後の衆議院及び参議院の本会議で第100代内閣総理大臣に指名されました。

岸田総理は、就任後初の所信表明演説で重点的に取り組む政策として、「新型コロナウイルス感染症対策」、「新しい資本主義」、「外交・安全保障」の3点を掲げました。その後の第49回衆議院議員総選挙において岸田内閣は絶対安定多数を超える議席を確保し、国民の信任を得たことにより、日本はコロナ禍を乗り越え、成長と分配の好循環による新しい経済社会への道を歩みだしました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しは立たず、変異株による更なる感染拡大も懸念されていますが、岸田内閣においては山梨県衆議院2区選出の堀内のり子代議士がワクチン接種推進担当大臣に就任されました。堀内大臣におかれましては、希望する全ての方が早期に3回目のワクチン接種をすることができるようご尽力されますことをご期待申し上げます。

私も国や富士吉田市と連携しながら、新型コロナウイルス感染防止対策やポストコロナ時代を見据えた経済対策に全力で取り組むことを改めてお誓い申し上げます。

昨年の11月定例県議会におきましては、新型コロナウイルス感染症に対する各種施策をはじめ、「富士山噴火を想定した訓練の実施」や「小水力発電所の整備と活用」などの様々な県政課題について一般質問しました。その質問と答弁の要旨をお届けしますので、皆様からのご意見をお待ちしております。

山梨県議会議員  
渡辺淳也

県議会  
レポート

Vol.14 2022.02

